子供が安心感をもち学ぶ意欲を高める教師の言葉がけに関する研究
－授業における発話分析と授業リフレクションシートの開発を通して－

所属校：品川区立杜松小学校
氏　名：柳　原　典　子
派遣先：東京学芸大学教職大学院

キーワード：授業力向上・授業展開力・子供理解力・教師の言葉がけ・受容・学ぶ意欲・発話分析

Ⅰ　研究の目的

今、子供たちに必要な学びとは、「他者とのかかわりを通して 創造する喜びや自分や他者のよさに気づくこと」である。それは、「人・こと・もの」との出会いから手ごたえを感じ、聴き合い学び合うという友達や教師との心の絆から生まれる言葉でつながっていく過程を通して、新たな見方・考え方が生まれることを実感することである。

このことを実現するためには、教師と子供の心の交流がなされ、お互いがよりよい関係を求めて共に歩む姿勢をもつことが肝要である。しかし、子供のありのままの思いを受け止めることなく、教師の経験則に基づく指導をくり返したり、子供の思いを教師の意図する方向性に沿ったことのみで価値づけたりすることによって子供との心の交流が希薄になっていく。

教師と子供の心の交流は、子供の思いの背景や過程をくみ取り、その子に合った言葉をその子の心に届くように伝えることにより醸成されていく。秋田(２０１０)は『[1]相手の表情やまなざしにふれてそれを受けとめ相手に応じた言葉を届け、心を開き相手に心を寄せること、これは対話の出発点である。』と指摘している。このように、子供が、教師とのあたたかい言葉のやりとりを通して自分の思いを受け止めてもらえる安心感や考えが深まっていく充実感を体感することは、子供たち相互のかかわりを構築する基盤となる。

そのため、学ぶ意欲を高め豊かな学びを育むためには、教師の言葉がけにより、子供一人一人が安心感を高めることが何より大切であると考えた。この安心感は、教師が子供の心の内に抱いている不安や自信のなさなどの負の感情に向き合い、感情を受け止め、共感することによって初めて育まれるものである。

そこで本研究では、子供が安心感をもち自分の考えを語り、他者とのかかわりを通して聴き合い学び合う過程で、新たな考えが生まれる授業を展開するための教師の言葉がけのあり方について検証することを目的とする。

[1] 秋田喜代美「教師の言葉とコミュニケーション」教育開発研究所

Ⅱ　研究の方法

１　研究の視点

(1)子供が安心感をもち、学ぶ意欲を高める教師の言葉がけの分類・整理

(2)教師自身が子供とのかかわりを振り返り、子供との関係を見つめ直すことによって指導の改善の方向性を明確にするための授業リフレクションシートの開発

２　調査研究

１　所属校（品川区立杜松小学校）の教師の授業観察

学級経営が安定している教師（経験年数５年）の授業観察を行い、逐語記録を作成した。(観察時間５０時間)

２　学級経営が安定している教師の授業観察

校長に学級経営が安定し、学習効果を上げている教師を推薦して頂き、それらの教師が授業で子供にどのような言葉がけを行っているのかを観察し、授業逐語記録を作成した。(観察時間２８時間・訪問学校数８校・観察対象教師２１名・経験年数３年目～２３年目)

Ⅲ　研究の結果

１　本研究における言葉の定義

言葉がけとは

子供の学びの有り様を受け容れ、確認するとともに、子供自身の考えを明確にし、自ら問題を解決していけるように焦点化を促すことによって、子供自らが新たな方向性をひらいていくための教師の語りかけや問いかけのことをいう。

２　授業における教師の言葉がけの分類・整理

授業逐語記録をもとに教師の言葉がけの分類整理を行ったところ、教師と子供との対話によって共に新しいものを生み出す授業には、次のような「言葉がけの段階」があることが明らかになった。

〔Ⅰ肯定的関心の表明 〕

学びの喜びは、わからないことがわかるようになることを実感できることにある。しかし、子供が学びに立ち向かう時、わからない自分をさらけだしていいのかという不安感にさらされることとなる。そこで、自分が思いついたことを話すことは心地よいことであることを感じさせる言葉がけが必要となる。

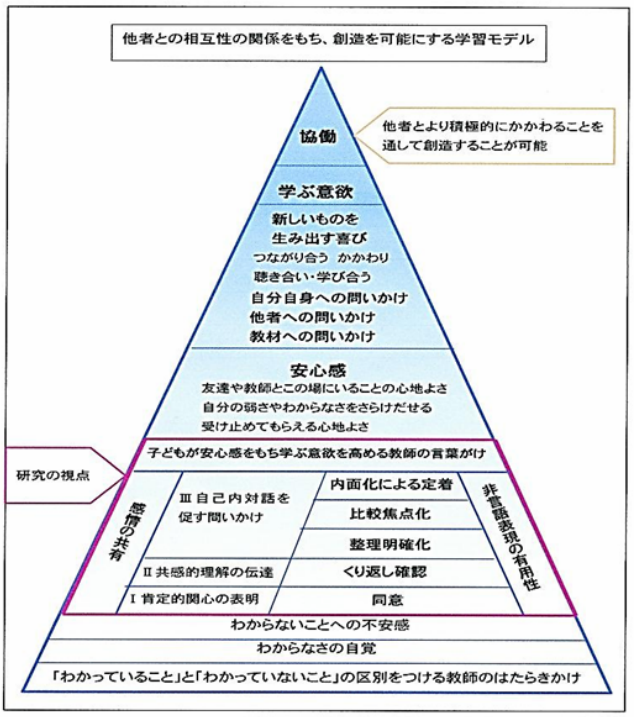
〔　Ⅱ共感的理解の伝達　〕

子供の思いを共感的に受け止め、それをその子に伝わる言葉で返すことにより自分の考えをより明確にして他者へ伝えていきたいという思いが高まってくる。

〔　Ⅲ自己内対話を促す問いかけ　〕

考えを整理し、焦点を絞る言葉がけや新たな考えを生み出すことができるような言葉がけにより、聴き合い学び合う中で自分の考えを深めたり広げたりすることができるようになる。

（1）言葉がけの分類・整理・抽象化・段階表の作成



子供が安心感をもち学ぶ意欲を高める教師の言葉がけの段階表		
Ⅲ自己内対話を促す問いかけ	内面化による定着	◆他者の考えを取り入れ、自分なりの理解を加えて発言したり、書くことによってふり返りったりし、自分の中にとりこんでいく過程においてより深い理解をもたらす。
	比較焦点化	◆いくつか出された意見の中から自分の考えがどの意見に近いのかを比較することによって明確にさせる。 ◆他者の考えと比較し、もう一度自分で考えてみたり、発言することによって自分の考えがさらに明確になり、そして自分の中から新しい考えが生まれる。
	整理明確化	◆子どものあいまいな発言に対して「何が、どのようになって、その時どう感じたのか」等をより具体的に言葉にして返していくことにより自分の考えを明確にさせる。 ◆教師の「整理明確化」の言葉がけによって、自分の考えがどこまで自分で理解できているのか子どもの自身の気づきを促していく。
Ⅱ共感的理解の伝達	くり返し確認	◆教師のフィルターを通した解釈をせず、子どもの考えのありのままを受け止めるために子どもの発言を繰り返して返す。子どもの思いや考えを理解し、共有したことの確認をする。 ◆聞き手である子どもたちにとっても発言した児童の意見をより理解できるようになる。 ◆教師の「くり返し確認」の言葉がけにふれ、くり返された言葉を聞くことで、より明確な表現の仕方はないか子どもの自身に気づかせる契機となる。
Ⅰ肯定的意思の表明	同意	◆子どもの発言や考えに対して肯定的にかつ全面的に受け止め、受容していていることを表し、安心感をもたせる。 ◆教師の「同意」の言葉がけにより子どもは、どんな意見でも受け止めてもらえるこを感じとり、安心感をもつ。

3　授業リフレクションシートの開発及び教師と研究者とのリフレクション

（1）授業リフレクションシートの開発

教師が子供との言葉のやりとりを、「書く活動」を通して振り返ることを行った。セルフカウンセリングの「自己洞察用紙」を応用した「リフレクションシート」を作成した。

「書く活動」を通してふり返ることのよさ

◇自分の気持ちを突き詰めていき、自分が書いた内容を様々な角度から吟味することができる。

◇自分で書いて自分で読み返すことにより、自分自身を見つめ、自分の中に新たな気づきが生まれる。その気付きが、自分と子供との関係を見つめ直す契機となる。

2010/11/24　東京都内公立小学校　4年道徳「花をさかせた水がめの話」 自分を大切にする心Ⅰ-(5)

子どもの表れ(○数字は発話番号)	教師のかかわり (○数字は発話番号) 言語表現 非言語表現(表情・身体・周辺言語)	その時の教師の気持ち
水がめは自分のことを大好きだと思えるようになりました。 自分のことを大好きだって思えることって大事なことなのかなあ？		
	⑬A君、言ってほしいなあ	
⑨A君（首をふる。自分からは言いたくないようなそぶり）		
	⑭じゃあ先生いってもいい？	⑭⑮A君のことをみんなに伝えた時の思い・気持ち 普段みんなの前で、自分の気持ちや意見を言わないA君が、深く自分のことを考えていることを知ってもらいたいと思いました。何も考えていないのでも、状況に甘えたり流されたりしているのではないのだということもわかってもらいたかったです。
⑩A君「いいよ。」（うなずく）		
	⑮先生が、授業の準備でみんなにしてもらったアンケートを貼ったりしているときにね。A君が「何々」っていってきてね。見ながら、「自分が好きになれなかったら、友達も大切にできないでしょ。」っていって。「A君いいこと言うね」っていったらA君笑ってたの。 （にこやかにほほ笑む。子どもたち一人一人に語りかけるように、ゆっくりとした口調で）	
（教師のにこやかな微笑みと共に、教室の子どもたちみんなあたたかな笑顔になった。教師とA君とのかかわりを想像し、A君そうだったんだね。やるじゃん。という空気に包まれた。）		⑯A君の意見を他の子どもたちに問い返した時の思い・気持ち みんなの様子から、A君の意見に同意したり、共感したりした様子がうかがえました。言葉にして、A君の意見を支持してほしかったです。今回のこの意見は、A君の「大切にしている気持ち」の一つととらえていました。つまり、かなり彼が自分の内面をさらけ出した意見であると考えられます。それを支持してもらえることは、K君自身を認めてもらえたことになると感じていました。それが、K君にも伝わると考えていました。
	⑯自分が好きだと友達のことも大切にできそうな気がする？	
⑪自分を好きになると明るくすごせそう。	内面化による定着	
	⑰なるほどね。	
A君はその時どんな気持ちだったと思いますか？	**自分の気持ちを書いてみて気づいたことはありますか？(教師)**	
ほっとしたうれしそうな顔をしていました。自分の言ったことが取り上げられ、それをみんなが肯定的な意見でつないでくれたことが、とてもうれしかったようです。大嫌いなスピーチも自分の力で発表しました。今では、挙手もふえ、発言することが楽しいようです。	課題があるとされる子ども達に限らず、どの子に対しても「その瞬間」をつかむことが大事だと思っています。活躍できる（しようとしている）場面をタイミングよくつかみ、「集団の中で他の誰かにつなげること」を意識していることがわかりました。	

Ⅳ　考察

視点をもとにした授業リフレクションのあり方

授業リフレクションシートを活用した省察を行い、教師が自分の授業を以下の視点をもって振り返ることによって、そこから新たな気付きが生まれ、自分と子供との関係を見つめ直し、今後の指導の方向性が明確になった。